

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072501139		
法人名	社会福祉法人 阿南町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム まめだかな		
所在地	長野県下伊那郡阿南町西条709番地		
自己評価作成日	平成21年9月29日	評価結果市町村受理日	平成22年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072501139&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「まめだかな」は環境的に恵まれており、日常生活が徒歩で活動・参加できる。隣接のデイサービスの行事やレクリエーションは参加自由であり、高齢者生活福祉センターの入居者が尋ねてくれたり、保育所が定期的に交流を図ってくれている。また、畑に出掛けて旬の野菜を収穫したり、ショッピングセンターに買い物に出掛けたり、掃除の後のゴミ出しにもいたり、床屋に行ったりが、ちょうど散歩がてらで良い距離に位置している。そういう立地であるため、買い物にきた家族や親戚の方たちが気楽に寄っていただくことができ、近隣住民の方々も野菜や果物のお裾分けを持って声を掛けてくださる。更に各居室は開放的な掃き出し窓となっており、横になっていても外の景色が見え、布団干しや草むしりにも居室から直接出入りできる。同時に非常時には安全な避難経路が確保されている。入居者が閉鎖感や孤独感を感じず穏やかに生活を送れるよう、職員も出来るだけ入居者と一緒に行動することを心掛けて支援に当たっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの大切さを職員は理解し、地域に住む一員として、町内会行事等積極的に参加し、又、子供達との行動を共にしながら、住民の人たちの理解ある交流が広がっている。ホームは恵まれた立地条件や環境を上手に活かして、利用者が穏やかに安心して生活が送れるよう、職員は、職員の視点でなく、利用者個々の視点に立ち支援している。今までの外部評価受審を管理者及び全職員で振り返り自らのサービスに対して、現状に甘える事なく、見直しの好機として捉えるなど、一層の気構えを垣間見る事が出来、今後更に取組を期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉協議会として地域福祉を支えていく中での事業として「受容・共生・自律」の標語とともに理念を掲げ、それぞれの生活を支えるよう取り組んでいる。	地域福祉を支えていく中で、地域密着型サービスの大切さを十分に理解し、地域に息づくホームづくりを行うため、標語として「受容・共生・自律」を掲げ様々な機会を通じて、地域の人達とのふれあいを大切にしながら実践に努めている。今後ホームのパンフレット等に理念を明確に掲げ地域の人達により理解を深めてもらう工夫も期待する。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平成17年の開所の時点から、区長・商工会・駐在などを地域重視で招き、内容の理解を得られるよう働きかけている。保育所との交流会、地区のどんど焼き等の行事への参加等、住民としての参加・交流を図っている。	地域とのつながりを重視し、ホームの理解を得られるよう積極的に働きかけ、クローバーの首飾りを園児と作ったり、薩摩芋焼き等保育園との交流、重箱持参の観音堂の数珠回しなど、地域の人達との温かい交流が続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として介護者の集い等を通し、また、運営推進会議においてなど、制度の説明や認知症介護の相談事への対応などを行なっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見・提案や質問を通し、理解いただきながら協力体制につなげるよう取り組んでいる。	4ヶ月毎の会議では、ホームの状況報告や、災害対策、外部評価、行事予定など話し合いを通じて、意見を頂きながら地域に開かれたサービスの確保を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場へ折々出向いて交渉や説明を行なっている。	町担当職員は、運営推進会議に参加してもらっている。又、ホームの状況や取組等を報告しながら、ホームの実態を担当者に理解をもらえるよう取り組んでいる。		

外部評価結果 (グループホームまめだかな)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	多動な入居者が数人居るが、職員は拘束をしない方針で徹底している。ご家族にもそのリスクも含めた内容を説明し、理解いただいている。自由に行動できる空間としての対応を継続する。	管理者及び職員は、拘束しない方針を徹底し、気づきを養う研修を通じて、サービス提供場面において自立に向けたケアの見直しを行っている。家族には、利用者固有のリスクも含めた内容を説明し、理解を得ている利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	重要課題として取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加や学習会を通して、認識されるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の方針と共にリスクも含めた説明を行い、理解いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時等、機会がある毎に行なっている。	家族等来訪時に意見、要望、苦情を伺うよう努め、出された意見等は毎月の会議にて更に検討を行っている。又、福祉相談員による意見、要望等の聞き取りなど体制を整えて、質の向上及びホームの運営へ反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や日常の対話の中で、現場の意見・情報を樹脂して相談している。	代表者や管理者は、毎月の会議や、日常の対話の中で現場の意見や情報など聞くよう、努力している。職員からのアイデアとして、フェンスの扉を付けたり、行事参加の提案をもらったりして、運営に反映している。	

外部評価結果 (グループホームまめだかな)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の職員に対する感謝の気持ちを忘れず、日々の会話等により働きかけ、調整し、また評価もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、外部研修会への参加や内部学習会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流学習会など、出来る限り参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式により、本人を理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談等により聞き取りを行なっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談等により相談・検討を行なっている		

外部評価結果 (グループホームまめだかな)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のことを教えてもらったり、好きなことを一緒にやってもらったりしている。常に入居者の笑顔を引き出す工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来所を受け入れ、必要に応じてTEL相談したりして、協力関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや一時帰宅など、外出の機会をできるだけ設けて支援している。	本人が、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう、お墓参りや盆、正月等の一時帰宅など、外出の機会を多く持ったり、利用者がこれまで暮らしてきた馴染みの人達や友人等の訪問など、これまでの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ることで助け合いを行なってもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者に対しても支援を続けている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、受容を念頭に置き、安心して暮らしてもらえるよう努めている。	本人がその人らしく、安心した暮らしが継続できるよう、センター方式を活用し、本人の何気なく言った言葉や仕草等、職員は日々の気づきを共有しながら、受容を念頭に置き、本人の思いや意向を把握するよう努めている。	

外部評価結果 (グループホームまめだかな)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、共生を念頭に置き、安心して暮らしてもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、自律を念頭に置き、安心して暮らしてもらえるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に、ご家族等と連絡を取り合い相談しながら対応を図り、状況変化に応じて検討・調整を行なっている。	サービスの利用開始時に、家族の意向や本人の状態など聞き、担当者を中心に状況変化に応じて検討されているが、介護計画には記載されていない。	日々の介護は、状況に合わせて介護計画を見直し提供される事が求められるので、サービス計画の実施状況と評価や経過観察シートによる課題の把握などアセスメント、モニタリングの細かな手法を取り入れ、チームによる介護計画、又、家族の意見も充分反映された介護計画を作成されることが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の職員が記録し、申し送りを行い、必要に応じて相談・見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	来訪・外泊・交流・参加等、ご家族・地域の状況に応じて柔軟に活動できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所との交流会、地区のどんど焼きや商業祭等の行事へ、住民として参加・交流を図っている。		

外部評価結果 (グループホームまめだかな)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援医療機関として診療所・阿南病院・みかさクリニック等に協力体制を依頼しており、必要に応じた対応が出来るよう図っている。	入居時に受診先の意向を確認し、利用者は協力医療機関に受診している。定期的な主治医の往診や、重度化した場合は、夜間、土日の往診もある。通院介助等は、受診結果を家族に報告し、健康管理が適切に行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として配置。同法人事務局・デイサービス等の看護師とも協力体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力期間として支援体制をとっており、担当医師ともしっかり相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「生前指示書」を取り交わすことにより意向を確認し、ターミナルまで考えた支援を念頭に置き、状況に応じて連絡相談している。同時に、全面的介護に対する技術・知識の向上に努めている。	利用者全員の「生前指示書」を交わし、意向を確認し、重度化や終末に向けた支援を念頭に置き、日頃から本人の状況に応じて、医師や家族、職員と連絡をとりながら、急変時に対応して、方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会等を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各居室は避難し易い掃き出しとなっており、運営推進会議を通じて区長・地元商工会等に協力を働きかけている。また、隣接同法人の事業所の夜勤者及び管理人が支援に入り、同時に警備会社にも通報できるシステムになっている。	各居室は、避難しやすい掃きだし窓になっていて、運営推進会議等を通じ、区長等に協力を働きかけている。隣接の同法人の支援や警備会社に通報システムになっている。	緊急時のマニュアルを作成し、職員全員で対応の研修や避難訓練を行いながら、具体的な避難誘導策を決め、利用者の安全確保を図ることが必要である。地域等関係機関の協力を得ながら緊急時の万全な対応の取組を期待する。

外部評価結果 (グループホームまめだかな)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声掛けや誘導など、気を配って対応している。	高齢者介護の最大のキーワード「尊厳」をホームでは、実践の中で強く意識しながら支援している。ホームに掲げている「職員心得十か条」を職員採用時は勿論、日常的に振り返り、利用者の生活暦や習慣を理解し、プライバシーを損ねる事のない言葉かけや接し方を実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を大切にし、季節の外出につなげるなどの支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や外出など、個々の希望とペースを重視した対応を行なっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	知人の訪問によるカットや隣の床屋さんでの散髪の利用、外出時の衣類や帽子などのおしゃれなど行なっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや片付けの他、畑での野菜の収穫も散歩がてら一緒に行なっている。自分たちで採ってきた新鮮な野菜が食卓に上がる楽しみも大切にしている。	一番の楽しみである食事は、一人ひとりの好みも加味しながら、ゆっくり食べる事が出来るよう職員は気配りしている。下ごしらえや片付けなど職員と共に行ないながらその中でも、職員のさりげない支援もある。外出した時は、外食を楽しんだり、郷土料理の五平餅を家族と一緒に作ったりして、食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	パンや麺类等、本人の好みも考慮しながら、牛乳やジュース、時にはビール（ミニ缶）なども用意し、支援している。			

外部評価結果（グループホームまめだかな）

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員による声掛けや誘導により支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け・誘導や居室へのポータブル設置など、気を配っている	トイレ排泄を基本としての、職員による統一した声かけ誘導を実施している。利用者毎の排泄パターンを記録し、トイレに行きたがらない利用者には、一人ひとりのサインを把握し、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に活動他水分摂取等心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく楽しんでもらえるよう、ゆっくり支援している。	入浴は、2日に一回体調を見ながら午後実施されている。気の合った利用者同志で好きな花を湯船に浮かべて、ゆったりと気持ちよく入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝誘導や環境等、こまめに対応している。就寝・起床時間は、個々のリズムに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員を中心に、医師との支援体制を含めて対応している。		

外部評価結果 (グループホームまめだかな)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の収穫・ゴミ出し・買い物・草むしり・調理の手伝い・洗濯物・掃除等、それぞれで出来ることに参加してもらい、行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	野菜収穫・買い物・隣接のデイサービスへの参加・家族との外泊等を、希望に沿って日常的に行なっている。	出来るだけ戸外へ出て、散歩、野菜の収穫作業やスーパーへの買い物、家族との外泊等、利用者の行き先を固定化せず、希望に沿って日常的に行なっている。遠出の外出も行い、本人の有する力を発揮できるよう支援も行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人所持の現金としては行なえず、職員管理又は家族に付き添ってもらっての対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	TELは時々家族との連絡の折に交代して行なうことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や木などで環境に配慮している。広い共有スペースを活用し、畳やソファなどそれぞれの居場所が確保できている。	広い居間には、明るい日差しが入り、畳のコーナーでの手作業や仲間との語らいは、利用者にとって居心地のよい場所となっている。又、草花に囲まれたベランダやクローバーで敷き詰められた場所での食事等は、季節感を配慮され居心地よく過ごされる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファやテーブルなど、それぞれが落ち着く場所で過ごしてもらっている。広い空間を有効活用していく。		

外部評価結果 (グループホームまめだかな)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスや楽器など持ち込んでいるほか、各部屋名を屋号や苗字にしている。居室の窓は掃き出しになっており、開放的な空間になっている。	掃きだし窓の居室は、明るく窓を開けると草むしりや布団干しが出来る等、自宅生活の延長のような暮らしが感じられる。各居室の入り口はその人がこれまで言い慣れていた屋号が掲げられ、個々の居室は、友人からの手紙や置物などその人らしく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は個々の行動に合わせた場所としており、介助にもじっくり対応を心掛けている。		